

平成 27 年 11 月 24 日（月）18：30～20：30

足立区こども支援センターげんき

居宅介護支援事業所	69 事業所	79 名
PTOT ネットワーク		55 名
合計		134 名参加

1. 挨拶 鶴沢部会長

2. 事務連絡

- ・12 月交流会は千住丸井 11 階に変更
- ・主任ケアマネについて
主任ケアマネのアンケートを居宅部会でとったところ、主任ケアマネは 80 事業所 100 人いる。
来年から同行研修が開始になるため内容や役割、その他更新や新規取得について検討する
機会を持ちたい。
- ・介護なびあだちについて
事務局からファックスやメールでお知らせをしているが、事務局の負担軽減のために
メールでの情報提供を行っていききたい。
今年度中にメールの登録をしていない事業所に個別でお知らせをしていく。
- ・マイナンバーについて
厚労省は H28 年 1 月から書式運用のお知らせをしている。
だが足立区としては介護保険の運用としてマイナンバー記載は未定である。
ケアマネジャーとして利用者のマイナンバー保管について配慮しておく。

3. シンポジウム 「地域包括ケアのためにケアマネジメントとリハビリテーション」

～ シンポジニスト ～

- ・福岡クリニック在宅部 理学療法士 山ノ内 聖一 氏
- ・きづきリハビリ訪問看護ステーション理学療法士 内田 亮太 氏
- ・通所リハビリテーション常楽 理学療法士 和田 直樹 氏
- ・障がい福祉センターあしすと 作業療法士 大橋 千恵子 氏
- ・高齢者在宅サービスセンター西新井 作業療法士 大西 健太郎 氏

～ コーディネーター ～

居宅介護支援部会 鶴沢 藤村 高木 津島

①山ノ内氏挨拶

各々の協会とは別に、区内の PT OT ST のお互いの顔の見える関係を作る為に発足した。

②あしすと 大橋氏より （社会リハビリテーション資料参照）

- ・対象者・社会リハビリテーション・活動内容・通所日・時間・利用期間・昼食 送迎 費用
- ・舗装具についての問い合わせ
区内在住、年齢制限なし 身障手帳取得など細かい要件があるが、
自立支援室 【直】5681-0132 理学療法士まで

③シンポジウム「地域包括ケアのためのケアマネジメントとリハビリテーション」

・PTOTネットワークからの意見

回復期病棟から退院したあとの在宅の状態を確認したいがどのように連携をとったらよいか。病院内では住宅改修や家の様子、家族の状態を把握できていない。これでよかったのかと悩む。個人情報の問題もあり、ケアマネジャーからどのように情報を得たほうがよいか。

回復期のリハ情報を送っているが、こういった情報を盛り込んだほうがよいなど言ってもらいたい。具体的な事や在宅でのリハビリに関する事も記載している。

利用者がリハビリを希望したら、どのような基準で事業所（通所や通所リハビリなど）を選ぶのか。

訪問リハビリや通所リハビリの目的が筋力向上で止まってしまい、卒業する事ができないケースあり。

・居宅部会より

ケアマネジャー自身も連携を取りたいと考えている。お互いに必要時には電話等を利用し連携をとっていきたい。

リハビリ事業所を選ぶ基準は、本人と家族から希望を聞く。自宅のある所のサービス内容や本人の意欲や個性も参考にする。

・居宅部会からの意見

リハビリテーション会議とサービス担当者会議は何が違うのか。リハビリテーション会議でケアマネジャーが何を話してよいかわからない。

加算がついて単位数が上がってしまう。加算の内容がわからない。

重度者（身体的及び認知症）は何が参加や活動になるのだろうか。

・PTOTネットワークより

リハビリテーション会議は、医師を交えて行う。医師の指示のもとリハビリを行っている。

リハビリテーション計画を作成した医師が説明し、その人の生活や社会参加にむけて関係者皆で考え、きちんとやっている所に加算することが趣旨である。

リハビリを行う事でどうなるかを明確にするために、本人と家族も交えて行う。

社会参加支援加算・・・今年はまだとれない。

重度者は、その方に合った対応を試行錯誤して行う。